中村小学校　研究通信　チーム中小

H29　10月2日（月）

No.１６　文責　宮﨑　陽子

単元名「オリジナル・ストーリーを作ろう」

教材名「ある人物になったつもりで」（東京書籍　４年下）

加藤大輔　教諭

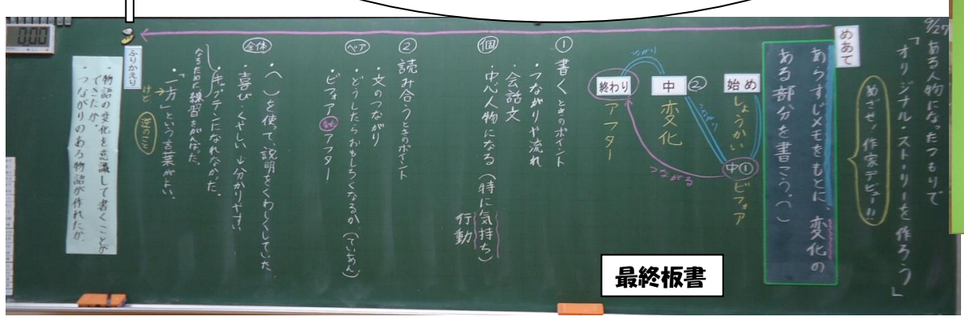
前回の研究通信でお知らせしましたように、山岡先生の授業に続いて、同じ教材の同じ時間のところを加藤先生に公開していただきました。単元の導入から見せていただく中で、加藤先生が事後研でもお話しされていた５／９時間目のことも少し入れて、今回の授業研のまとめにしたいと思います。

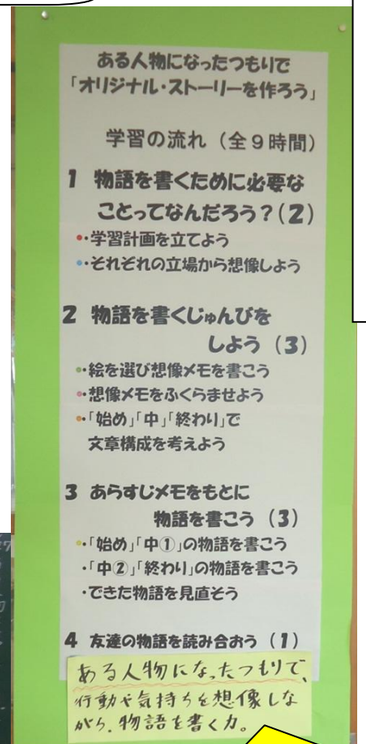
物語を「起承転結」のように４つの部分として捉えていくか、「始め・中・終わり」の３つの部分として捉えていくかを加藤先生は悩んだとおっしゃられていましたが、今回は「始め・中①・中②・終わり」として「あらすじメモ」の構成を考えさせるように計画されていました。３年生の時の学習を想起させることで、どの子どもにも無理なく学習内容が伝わっていました。（５／９時間目）

家を建てる時、「柱」を決めることが大切だったね。今日は柱が４本。予習をもとに、「始め・中①・中②・終わり」にどんなことを書けばいいか考えて書くよ。

3年生の教材を掲示

黒板の上側をサーフィンしながらすすんでいる**「かつお人間」**。今、授業のどこを進んでいるのか、この後何をするのかが分かる工夫を取り入れています。（ユニバーサルデザイン）





今回より、単元構想図に「身に付けさせたい力」を明記

授業者より

○子どもたちが物語を書きやすくなるようにいろいろな手立てをうった。教科書は１枚の絵だが、子どもが興味を持ちそうな「サッカー」「昆虫」「犬」が描かれている３枚をつけ足して選ばせた。また、「想像メモ」からそのまま文章化するのではなく、「あらすじメモ」を取り入れた。

○対話では、編集者と作家という役割を持たせる工夫をした。

○子どもたちには「走れ」の物語のイメージが強く、ビフォー・アフター（変化）を意識していた。

▼「あらすじメモ」には「変化」が見えていたが、長文になると見えにくくなった。

▼書くことに能力差があり、個人的な指導をするのが難しい。

研究協議より

○ノートの書き方（４Ｐに分けていて構成が分かりやすい・下段を線で分け付箋を貼る）に工夫があり、対話での付箋の活用もよかった。

○児童に興味を持たせる工夫やこれまでの学習したことやポイントが分かる掲示がよかった。

▼「つながり」と「変化」、２つのキーワードが出てきたが、「つながり」はあらすじメモで確認し、本時は「変化」に中心をおいた方がよかったのではないか。ペア対話の視点も「変化」にすれば良かったのではないか。

▼この単元は、「構成（変化）を考えて書く」ではなく、「中心人物の立場で想像を広げて書く」が大切だったのではないか。一人称や三人称の書きぶりの児童がいた。立場によって主語が違うことを押さえる必要も。また、同じ絵を選んだ児童でペアを組ませたら、立場の違いで書きぶりが違うことがつかめると思われる。

指導主事より

・教科書の系統性（２年では接続詞を意識させて・３年では人物の会話や行動を意識して）を押さえることが大切。４年では、中心人物を決めてその立場になって物語を書く。１枚の絵の前後にどのようなストーリーが生まれるのか。「変化」については、５年で扱うことになっている。学年の学習のつながりを踏まえて、既習したことを使いながら今の学習へと進んでいくこと。

・学習指導要領に基づいて指導事項を的確に捉えること、児童の実態も考慮しマトリックス表を活用しながらその学年で押さえるべき学習内容を落とさないように指導すること、国語科はあいまいな部分があるので教師自身が明確にさせていく必要がある。

・この単元で「付けたい力」は何なのかを明確にして、その指導の中心のところを公開すること。

・「つなぎ言葉」「性格を表すこと言葉」「行動を表す言葉」など、この単元で使わせたい語句を教室内に掲示し、書くときの手がかりにさせたい。→語彙を豊かにしていく手立てを！

運動会の振休明けの授業とあって、授業のつながりや児童のモチベーションをどう維持していくか大変だったと思います。夏休みから構想を練り、児童に提示する絵を自分で描いたり、教科書にはない「あらすじメモ」を取り入れたりと加藤先生自身がこの教材に興味を持ち、熱心に取り組んでいたのが伝わってきました。この授業の翌日、「事後研でたくさん学んだという充実感があった。」とある先生から感想をいただきました。今回の授業に加藤先生の強い探究心が表れていたのだと思います。加藤先生、提案性のある授業をありがとうございました。